

〔令和 7 年度予算編成方針〕

「第三期中期目標・中期計画」のスタートとなる令和 7 年度は、これまでの取り組みであるグローバル化の推進、高度な専門性を有する人材や地域社会に貢献する人材の育成及び先導的・創造的な研究の推進等を踏まえつつ、それぞれの大学の将来ビジョンの実現に向けた取り組みを進める

〔第三期中期目標・中期計画期間：令和 7 年 4 月～令和 13 年 3 月（6 年間）〕

〔重点取組項目〕

- グローバルリーダーをはじめとした次世代リーダーの育成 次世代リーダー
- 学際的・創造的研究の推進による SDGs 達成への貢献 SDGs
- 水素エネルギー研究等の G X 関連研究 水素・GX
- 教育・研究・社会貢献・法人経営における D X の推進 DX

〔参考〕

地方独立行政法人法の改正（R5.6.16 施行）に伴い、年度計画、年度評価は不要となったが、県との協議により、質保証や進捗管理等の観点から、法人独自の取組として、年度毎の業務実績（概要）の取りまとめを行う

令和 8 年 6 月
兵庫県公立大学法人

取組の方向性

ナンバー：中期計画の項目No.

〔教育〕

① グローバル社会で活躍できる人材の育成 | No.1,2

- 全学的なグローバル教育の推進により、グローバル社会で活躍できる人材を育成する教育プログラムを提供
- 交換留学や語学研修等の充実、留学生の積極的な派遣・受入を促進
- 学生・教員の国際的な学術交流や共同研究等を支援するため国際的なネットワークを拡大

② 地域を支える専門人材の育成 | No.3,4

- 高い専門性や幅広い教養を持つ専門人材の育成のため、リカレント教育・リスキリングプログラムを推進
- 地域と協働して主体的に学ぶことで地域を支える人材を育成

③ 社会のニーズを踏まえた高度な専門性を有する人材の育成 | No.5

- データ分析や生成AI等、各専門領域において、高度な総合知や汎用的能力を持ち、高いレベルで活躍できる人材を育成
- 国際的な人材獲得競争が加速する中、博士人材など高度専門人材を育成

④ 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成 | No.6

- レイトスペシャライゼーションの考え方を踏まえ、カリキュラムの抜本的見直しや体制強化を図り、教養教育改革を推進
- 総合大学としての特徴を生かした文理融合、学部横断型の学際的な教育を展開

⑤ 人材育成に向けた教育システムの充実 | No.7,8,9,10

- 教学IR、FD・SD、学生との意見交換会等を踏まえた学修者本位の教育の実施に向け、教学マネジメントを推進
- 学生の様々な能力や経験を評価する入学者選抜の方法を拡充するとともに、年内に合格した生徒に対する入学前学習（事前学習）を推進
- 県内企業と連携した課題解決型授業やインターンシップ関連授業の充実等学生ニーズに的確に対応した就職・学生支援を実施
- 中高一貫教育の優位性を生かした附属中高の教育課程の充実や学部・研究科の教育研究資源を活用した中高大連携を強化

令和7年度の主な取組

① グローバル社会で活躍できる人材の育成 DX 次世代リーダー

- 海外大学の派遣と受入等に資する海外協定先を拡充（21か国・地域の50大学）
学生の海外派遣者の拡大を図るため理事長裁量予算を活用して渡航経費の支援を実施（52名）
- 留学・インターンシップ等を支援する海外拠点をタイに設置
- 国際交流センターにおいて海外大学等とオンラインを活用した交流プログラム等を実施（カンパセーションパートナー・プログラム参加述べ人数（123名））

② 地域を支える専門人材の育成 DX 次世代リーダー

- 新長田プラチナを中心に、生成AIなどAI技術に関する教育プログラムやスタートアップ人材育成セミナー等を提供
- 国際商経学部、社会情報科学部、環境人間学部、看護学部等において、地元企業の課題やデータを使った授業・ゼミ、フィールドワーク等を実施

③ 社会のニーズを踏まえた高度な専門性を有する人材の育成 次世代リーダー 水素・GX

- 公募による選抜した博士後期課程学生21名に、研究奨励費月17万円、研究費50万円を支給（JST SPRINGプログラム）
- 工学部の一学科への改編（知能情報コースの設置等）の実施に加え、環境人間学部のグリーンサイエンス学科新設を含む改編（R9.4～）の検討等を実施

④ 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成 DX 次世代リーダー

- R8からの全学共通教育科目の再編に向け、常勤教員が責任を持つ内部質保証体制の構築、概論科目の開講、6学部で同時実施可能なオンライン授業等の準備を進め、科目数の見直し、担当教員、時間割、読替科目等を決定
- 文科省認定の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」について、社会情報科学部で開講（リテラシーレベルは共通教育科目として全学生が受講）

⑤ 人材育成に向けた教育システムの充実 次世代リーダー

- 教学マネジメントセンターにおいて、学生との意見交換会や入・卒業時アンケートの分析を行い、全学的な教育課程の体系化や改善を実施
- R9年度入試より前期・中期・学校推薦の募集人数を増加するとともに、指定校推薦の新たな実施。また、従前からの事前学習に加え通信講座サービスの新規導入に向けた検討
- 各学部生が基礎ゼミの中でキャリアパスを考えるためのキャリア教育を実施
- 附属高校生が7～9月にかけて各キャンパスにラボ訪問を実施。また、大学教員が連携して附属中学のプロジェクト学習の指導を1年間実施するなど、中高大連携を推進

取組の方向性

ナンバー：中期計画の項目No.

令和7年度の主な取組

[研究]

⑥ 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進 | No.11

- SPring-8-Ⅱ、ニュースバル、スーパーコンピュータ「富岳」等の高度な研究基盤を活用した先端研究の推進や先端医療工学研究所を中心とした異分野融合研究を推進
- 海外大学や研究機関との国際共同研究の推進により、世界に影響を与える研究成果を創出

⑦ 兵庫の先進的な取組を活用した実践的な研究の推進 | No.12

- 減災復興や災害・防災分野における健康維持活動について、国内外の研究機関や自治体と連携した先端的な研究を推進
- カーボンニュートラルへの貢献や水素社会の実現に向けた取組によりGXに関する研究を推進
- 医療、工学、情報科学など複数の分野が連携する学際的な研究を行い、LX(ライトトランスフォーメーション)の促進とデータヘルスに基づく研究を推進

⑧ 社会課題の解決に向けたイノベーションの創出 | No.13

- 社会価値創造機構地域創造センターを中心に、大学の持つ知見や資源を生かし、社会課題の対応方策や連携手法を探索
- 同センターが、各分野の教員と連携しながら、地域社会のニーズに応えるイノベーションを創出

[社会貢献]

⑨ 未来社会を先導する産学官連携の推進 | No.14

- ニュースバル放射光施設の産業利用、最先端研究及び人材の育成
- 産学官民の共創による新産業の創出や異分野融合研究と研究成果の社会実装を推進するため、大学発ベンチャーの創出を通じ、地域経済の成長に貢献する企業を育成
- 地域活性化を図るため、新長田ブランチを活用した共同研究の強化やスタートアップを支援
- 地域産業が直面する課題や新たな技術革新に対応するため、数理最適化を含む教育プログラムを提供

⑥ 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進 DX

- ニュースバルの土日運転開始による運転時間拡充により、多数の共同研究に利用している波長13.5nmのEUVリソグラフィ研究を大幅に加速
- 先端医療工学研究所では、共同・受託研究16件（うち神大病院6件）、県立はりま姫路総合医療センターとの研究連携25件等、医療AI、医療機器開発等の研究を推進

⑦ 兵庫の先進的な取組を活用した実践的な研究の推進 DX SDGs 水素・GX

- 水素エネルギー共同センターでは、低コスト水素精製、バイオ由来燃料の活用、水素脆弱性改善技術等について、県、企業等と協議や共同研究を継続して実施
- 看護学部、社会情報科学部が播磨町と連携し、ベテラン保健師の認識や判断基準を体系化し、ChatGPTを用いた三歳児健診における発達相談への対応について検討
- 社会情報科学部では、英独米仏の著名研究者との国際共同研究により、量子計算の最重要会議「QIP（口頭発表）」および物理学の権威ある学術誌「PRL」に採択

⑧ 社会課題の解決に向けたイノベーションの創出 DX SDGs

- 社会価値創造機構では、R7に新たに太子町と包括連携協定を締結。受託・共同研究の進展に向けた取組を実施
- SDS研究所では、県が実施する「はばたんPay+」の経済波及効果推定や明石市の子育て支援政策の人口移動への影響の研究のほか、県商工会議所と調査研究に関する包括連携協定を締結

⑨ 未来社会を先導する産学官連携の推進 DX SDGs 水素・GX

- ニュースバルは共同利用が増加（2150万円）するとともに、学部学生にビームラインの利用を授業で実際に体験してもらう教育プログラムを推進
- 先端医療工学研究所では、医産学看連携に向け、イノベーションサロンにおいて、企業や医療機関とのテーマ検討会や公開講座を継続的に実施
- 理学研究科では、企業等にオープンファシリティーにより高圧凍結装置、精密切削装置、極低温電子顕微鏡等を利用に供し、企業の研究開発等をサポート（計10社）
- 新長田ブランチの数理最適化データサイエンスセンターでは、研修会や人工知能学会全国大会での「ものづくりデータサイエンス基盤」に関するオーガナイズドセッションを実施
- 国際交流機構では、観光庁の支援を得て、将来の国際会議主催者育成のために、姫路観光コンベンションビューローとともに国際会議の開催支援、学内セミナーの実施のほか、大規模会議初心者向けハンドブックを作成

取組の方向性

ナンバー：中期計画の項目No.

令和7年度の主な取組

〔社会貢献〕

⑩共創による持続可能な地域づくりの推進 | No.16

- 県内の企業・団体等と連携し、総合知を活用した研究成果を社会実装することで、持続可能な地域づくりに貢献
- 学生のみならず、地域住民の自己実現とキャリアアップを図るための生涯学習を支援するリカレント教育等を強化

⑪次世代の兵庫を担う人材育成と地域の期待に応える取組の推進 | No.17

- 本学学生が、県内各地の各分野で活躍し、自己実現が達成できるよう、地元企業や自治体等と連携し、インターンシップや人材のマッチング等を充実強化
- 学生にキャリア教育と実践的な就職支援を行い、県内就職を促進

〔管理運営〕

⑫ダイバーシティ・イクイティ&インクルージョンの推進 | No.34

- 性別、国籍、障がいの有無等にかかわらず、多様な任用形態を進め、教職員の質の向上を図り、社会の変化に対応した教育研究体制を推進
- 多様なバックグラウンドを持つ学生が自らの可能性を最大限に発揮できる環境を整えるとともに、サポート体制を充実

⑬戦略的広報の展開によるブランドの構築と知名度の向上 | No.35

- 研究・社会貢献活動の内容や成果について、広報対象者を意識し効果的に情報を発信
- 学生や教員、地域社会と連携をさらに深め、より大学の魅力や特色が出せるよう大学のブランディングを強化

⑭安全・快適な教育研究環境の計画的整備 | No.39

- 計画的な施設の長寿命化・老朽化対策に取り組むほか、機器設備の整備・更新を進め、先端的な研究を支援

⑮外部資金の獲得と財政基盤の強化に向けた取組強化 | No.40

- 外部資金獲得の取組に対する適切な支援を行い、競争的研究資金や公募型研究事業の採択を含めた外部資金の獲得額の維持・向上を図る
- ふるさとひょうご寄附金やネーミングライツの活用を通じ、大学の自立性及び財源基盤の強化を図る

⑩共創による持続可能な地域づくりの推進 次世代リダー SDGs

- 各学部等の特色ある教育・研究資源を生かした公開講座を開催（48回、延4,334人）
- 全国的なクマ類の出没について、環境省、日本哺乳類学会などと連携し、出没対応のシンクタンク的な機能を果たすとともに、[個体数推定手法に関する提言](#)は、環境省の政策パッケージの素案として採用。本学の取組が多数のメディアで紹介

⑪次世代の兵庫を担う人材の育成と地域の期待に応える取組の推進 次世代リダー

- 就職年次の学生には[地元企業とのマッチングイベント](#)や[キャリア相談](#)を実施開催するとともに、[1, 2年次の学生には県内企業をめぐるバスツアー](#)を実施するなど、魅力ある地元企業への理解と就職意欲を高め、県内就職及び地元定着を促進
- 各学部においても地元企業の方に講演の依頼、企業訪問等の交流の機会を創出

⑫ダイバーシティ・イクイティ&インクルージョンの推進 SDGs

- 新任教員を対象とした「[研究者メンター制度](#)」による個別のキャリア支援（商科C新任教員1名利用）を開始。また、女性研究者10名への研究助成を実施
- [障がい学生支援](#)では、専門知識を有するコーディネーターを東西2か所に配置し、各キャンパスがいつでも相談できる体制を確保

⑬戦略的広報の展開によるブランドの構築と知名度の向上 DX

- 令和6年に全面的にリニューアルした大学HPのほか、SNS（X、Instagram等）を活用し、教育・研究・社会活動における成果を、情報の受け手に応じて効果的に発信
- 動画コンテンツを活用し、視覚的に訴求力の高い情報発信を実施（プロモーションビデオ（日本語版、英語版）、受験期メッセージ動画等）
- 工学部・工学研究科の再編について、HPや新聞紙面で周知

⑭安全・快適な教育研究環境の計画的整備 SDGs

- 今後の施設整備・修繕の基本的な方針及び実施予定を明確化する「兵庫県公立大学法人施設整備管理計画」を策定するとともに老朽化等で緊急性の高い整備を優先的に実施

⑮外部資金の獲得と財政基盤の強化に向けた取組強化

- 企業等との戦略的な包括連携協定の締結・活用やこれらに伴う大型外部資金獲得を図るため、社会価値創造機構に[包括連携推進室](#)を設置
- 令和7年度は2.3億円の寄付金を受け入れるとともに、[ネーミングライツ](#)については、工学部において継続的に実施

令和7年度に係る主な業務実績の報告

中期計画に定める評価指標の状況（抜粋）

教育

学生の海外派遣の人数 (名)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	173					
目標	最終年度：250名					

国際学会で発表した学生数 (名)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	120					
目標	最終年度：250名					

入学者志願倍率 (倍)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	6.5					
目標	5.6					

各年度：公立大学全国平均以上

査読付き論文数 (本)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	1,165					
目標	各年度：1,200本					

共同研究・受託研究数 (件)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	248					
目標	各年度：300件					

留学生の受け入れ人数 (名)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	299					
目標	最終年度：300名					

先端DX人材の育成数 (名)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績 (期間累計)	167					
目標	最終年度：累計1,100名					

就職希望者における就職率 (%)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	98.2					
目標	97.9					

各年度：公立大学全国平均以上

科研費の獲得件数・獲得金額 (件・億円)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	446 6.7					
目標	各年度：550件、8億円					

社会貢献

地域連携事業実施件数 (件)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	1,579					
目標	各年度：1,250件					

公開講座の延べ受講者数 (名)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	4,334					
目標	各年度：3,500名					

県内就職率 (%)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	34.0					
目標	各年度：36.1%					

外国人教員比率 (%)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	4.0					
目標	最終年度：7%					

女性教員比率 (%)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	23.9					
目標	最終年度：27%					

管理運営

研究

取組の方向性 ナンバー：中期計画の項目No.

[教育]

① 芸術文化及び観光の双方の視点を生かして新たな価値を創造できる人材の育成 | No.18,19

- 演劇やダンスのワークショップ等の実技と講義を交互に行い、対話的コミュニケーション能力を養成
- 芸術文化及び観光マネジメント能力を養成

② 地域活性化に貢献する専門職業人の育成 | No.20

- 芸術文化と観光の両分野を架橋した実践的な実習教育の推進により、地域課題の解決に貢献できる人材を育成

③ 世界に通じる専門職業人の育成 | No.21

- 多言語教育や海外実習等の取組を推進し、国際感覚を身に着けたグローバル人材を養成

④ 人材育成に向けた教育システムの充実 | No.22、23、24、25

- 認証評価の結果や教学IRによる学修成果の分析に基づき、カリキュラムを恒常的に見直す体制を構築し、カリキュラムの質的向上を図る
- 実習について、絶えずそのあり方を見直し、充実を図る
- 芸術文化・観光の専門性を活かした独自のキャリア支援体制を強化し、学生一人ひとりの適性に応じた多様なキャリア開発を支援

令和7年度の主な取組

① 芸術文化及び観光の双方の視点を生かして新たな価値を創造できる人材の育成

- 「コミュニケーション演習」を1年次の必修科目とし、演劇的手法を用いた実技や講義を通じて対話的コミュニケーション能力を養成
- コア科目やクロスオーバー科目を通じて、芸術文化と観光分野のマネジメント能力及び価値創造能力を体系的に養成。必修科目「芸術文化と観光」では 学生理解度93%を達成

次世代リーダー

② 地域活性化に貢献する専門職業人の育成

- 但馬地域の地元企業を中心に、臨地実務実習を展開。但馬の魅力を発見し、地域とつながりを持つ意識を醸成することで、卒業生7名が但馬地域で就職・起業（全体就職者の10.1%）

次世代リーダー

③ 世界に通じる専門職業人の育成

- 理事長裁量経費や文化芸術活動基盤強化基金等を活用した積極的な支援により、海外実習（14名）や海外語学研修（19名）、交換留学（2名）等の計42名の学生派遣を実施

次世代リーダー

[topic]

3月に台湾（台中）の協定校や現地ホテルのレストランでの実習を実施。多国籍な顧客への対応や、現地の学生等との交流を通じ、言葉や文化の違いを肌で感じながら業務を完遂した。未知の環境で自ら考え行動する経験は、学生の自信と他者理解、さらなる挑戦への意欲へと繋がっている。

「コウノトリ文学館」
観光資源実習の様子

台湾実習の様子

④ 人材育成に向けた教育システムの充実

SDGs

- 教学IRシステムを構築し、入試成績やGPA等のデータ分析に基づきカリキュラム改革や教育の質向上に資するエビデンスを蓄積
- 分野別認証評価の結果公表や、全教職員を対象とした修学支援の知識修得やハラスメント防止に関する研修（FD・SD）を年2回実施し、教育システムの恒常的な見直しを推進
- 実習科目の課題整理PTを設置、短期的・中期的な課題を整理
- キャリアサポートセンターに有資格者を配置し、ハローワーク等の外部専門家と連携した模擬面接を定期開催するなど、学生一人ひとりの適性に応じたきめ細やかなキャリア開発を支援
- クラス担任やアカデミックアドバイザーによる個別面談を徹底し、就職希望者における就職率94.5%を達成

取組の方向性 ナンバー：中期計画の項目No.

令和7年度の主な取組

【研究】

⑤ 専門職大学の強みを生かし、地域活性化に資する研究活動の推進 | No.26、27

- 芸術文化観光研究センターを中心に、芸術文化及び観光の各分野で蓄積した研究を深化

⑥ 研究成果の社会への還元 | No.28

- 地域貢献につながる共同研究等の推進、学会等を通じた研究成果の積極的な発信

【社会貢献】

⑦ 大学が有する資源の地域社会における活用 | No.29、30

- 地域リサーチ&イノベーションセンター（RIC）を中心に、地域の企業や行政等と協働し、新規事業の創出や新規施策を展開、持続可能な地域活性化を実現

⑧ 大学の特長を生かした地域貢献の推進 | No.31

- 県民ニーズを踏まえた公開講座の開設等により、特色ある学びの機会を県民に広く提供
- 学術情報館等の開放による、地域に開かれた大学の推進
- 但馬地域唯一の四年制大学として、地元自治体等とともに持続可能な教育の未来について検討

⑤ 専門職大学の強みを生かし、地域活性化に資する研究活動の推進

- 芸術文化と観光を架橋する「リーディングプロジェクト」（2件）、「研究プロジェクト」（4件）を学内プロジェクトとして採択
- 日常生活に支援が必要な児童対象のダンス活動を通じ、表現活動の価値を測る評価手法を検証・深化

⑥ 研究成果の社会への還元

- 学会やシンポジウムを通じて「リーディングプロジェクト」等、取組成果を情報発信

⑦ 大学が有する資源の地域社会における活用 SDGs

- 地域との協働プロジェクトを展開し、豊岡市や豊岡市工業会など但馬地域の行政・企業等の25者と34件のプロジェクトを推進

【topic】

「星のクライマー～植村直己」をR7.11に本学および豊岡市立府中小学校にて公演。多くの学生も関わりながら地元の偉人を題材とした創作演劇の実施を通じ、地域の魅力の再発見に貢献。



「星のクライマー～植村直己」
上演の一幕

- RICにおいて、但馬地域内の全20校での高校コミュニケーションワークショップ実施を含む、地域課題解決に資する34件の事業を実施

【topic】

但馬地域内の高校全20校で、演劇的手法を用いたワークショップを展開。身体と言語をフルに活用した活動を通じ、生徒が自身の特性や他者の多様性を深く理解することを促進。自律的に協働できる学習集団を形成することで、学校現場における日常的な学びの質の向上に寄与している。



コミュニケーションWSの様子
(村岡高校)

⑧ 大学の特長を生かした地域貢献の推進 SDGs

- CAT教養講座の開催（3回）のほか、但馬内全高校へのアウトリーチ活動を通じて、特色ある学びを県民に提供
- 学術情報館の開放を通じて年間約7,000名の学外利用を受け入れ、高校生の自習利用等地域の学びの場を提供
- 但馬地域唯一の四年制大学として、3市2町の教育長らが集う「但馬教育未来会議」を新たに立ち上げ。地元自治体等と地域課題を共有するとともに、持続可能な教育のあり方や将来構想についての検討を開始

取組の方向性 ナンバー：中期計画の項目No.

令和7年度の主な取組

〔社会貢献〕

⑨芸術文化及び観光に係る国際交流の推進 | No.32

- 海外大学等との協定締結や海外との交流を促進し、地域の国際交流に貢献

⑨芸術文化及び観光に係る国際交流の推進

- 8月にヴィクトリア大学（カナダ）、10月にプラハ芸術アカデミー（チェコ）と新たに協定を締結（累計13大学）
- 協定校との交流促進を目的に、ケント州立大学（アメリカ）を訪問し、授業聴講や大学専用劇場の視察等、舞台芸術教育の実地学習を実施

【topic】

韓国の交換留学生は、学外での活動も活発で、地元のサッカーチーム参加や家庭交流を通じて但馬の文化に深く浸透した。地域の方々と日常を共有した経験は、学生の成長のみならず、本学が推進する「地域と結びついた国際交流」を象徴する機会となっている。



留学生との交流の様子

〔管理運営〕

⑩戦略的広報の展開によるブランドの構築と知名度の向上 | No.35

- 効果的に情報発信する広報活動を戦略的に展開し、教育・研究・社会貢献の取り組みを各メディアを通じて積極的に発信

⑩戦略的広報の展開によるブランドの構築と知名度の向上

- 令和6年度に刷新したホームページを本格運用し、在学生が日常を発信する「学生ブログ」の連載やイベント情報掲載等、受験生への情報提供を実施
- 地域連携事業については、SNSで発信する等、地域住民への情報発信力を強化
- 定期的な学長記者会見の実施により、大学の教育・研究成果を積極的に発信した結果、年間で132件のメディア掲載を達成し、大学の知名度向上とブランド構築を推進

中期計画に定める評価指標の状況（抜粋）

入学志願者倍率 (倍)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	3.1					
目標	各年度4倍					

科研費申請者率 (%)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	64.3					
目標	各年度：80%以上					

RIC連携事業者数 (者)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績 (期間累計)	25					
各年度実績	25					
目標	最終年度累計120者					

メディアに取り上げられた件数 (件)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	132					
目標	累計660件					

学生の海外派遣の人数 (名)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績 (期間累計)	42					
各年度実績	42					
目標	最終年度累計120名					

学会・シンポジウムの開催 (回)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績	3					
目標	各年度：3件					

海外大学との協定締結数 (大学)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績 (新規)	13 (2)					
目標	累計15大学					

社会貢献

管理運営



兵庫県立大学
UNIVERSITY OF HYOGO



芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism

参考

第三期中期目標・計画期間に係る
業務実績評価

第三期中期目標・計画期間に係る業務実績評価

地方独立行政法人法の改正により年度計画及び年度評価が廃止（見込評価（中間評価）及び期間評価は引き続き必要）
見込評価及び期間評価に向け、法人として各年度の自己評価を継続

I 自己評価結果

令和7年度の業務実績評価: **中期計画どおり概ね順調に実施**

II 自己評価の状況 (a: 計画を上回って実施 b: 計画を概ね実施 c: 計画をやや下回っている d: 計画を大幅に下回っている)

1. 兵庫県立大学	R7	R8	R9	R10	R11	R12	総括
(1) 教育に関する措置							
ア グローバル社会で活躍できる人材の育成	b						
イ 地域を支える専門人材の育成	b						
ウ 社会のニーズを踏まえた高度な専門性を有する人材の育成	b						
エ 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成	b						
オ 人材育成に向けた教育システムの充実	a						
(2) 研究に関する措置							
ア 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進	a						
イ 兵庫の先進的な取組を活用した実践的な研究の推進	b						
ウ 社会課題の解決に向けたイノベーションの創出	b						
(3) 社会貢献に関する措置							
ア 未来社会を先導する産学官連携の推進	b						
イ 兵庫の経験を生かした災害に強い地域づくりへの貢献	b						
ウ 共創による持続可能な地域づくりの推進	b						
エ 次世代の兵庫を担う人材育成と地域の期待に応える取組の推進	b						
a 評価（計画を上回って実施）項目数	2						

2. 芸術文化観光専門職大学	R7	R8	R9	R10	R11	R12	総括
(1) 教育に関する措置							
ア 芸術文化及び観光の双方の視点を生かして新たな価値を創造できる人材の育成	a						
イ 地域活性化に貢献する専門職業人の育成	b						
ウ 世界に通じる専門職業人の育成	a						
エ 人材育成に向けた教育システムの充実	b						
(2) 研究に関する措置							
ア 専門職大学の強みを生かし、地域活性化に資する研究活動の推進	b						
イ 研究成果の社会への還元	b						
(3) 社会貢献に関する措置							
ア 大学が有する資源の地域社会における活用	a						
イ 大学の特長を生かした地域貢献の推進	b						
ウ 芸術文化及び観光に係る国際交流の推進	b						
a 評価（計画を上回って実施）項目数	3						

3. 管理運営	R7	R8	R9	R10	R11	R12	総括
1 戦略的経営の推進に関する措置							
(1) 社会ニーズの変化に対応できる体制の構築	a						
(2) 魅力発信と知名度向上	b						
(3) 教育研究基盤への計画的な新規投資	b						
(4) 両大学間の連携	b						
2 効率的経営の推進に関する措置							
(1) 経営資源の重点配分・相互利用	b						
(2) 安全・快適な環境の計画的整備	b						
3 自律的経営の推進に関する措置							
(1) 財務運営の改善	b						
(2) 自己点検・評価及び情報の提供	b						
(3) コンプライアンスの推進	b						
a 評価（計画を上回って実施）項目数	1						

Ⅲ 自己評価結果のまとめ

評価結果	R7	R8	R9	R10	R11	R12	総括
a (計画を上回って実施)	8						
b (計画を概ね実施)	22						
c (計画をやや下回っている)	0						
d (計画を大幅に下回っている)	0						
合 計	30						

(参考) 自己評価の方法

1 取組事業の評価

小項目の下にそれぞれ設定した計43の各事業の取組状況を検証し評価

評価	評価の基準	(計画達成度)	事業数	県立大	専門職大	管理運営
◎	計画を上回って実施	(100%越)	7	3	3	1
○	概ね計画どおり進行	(90%以上)	36	14	12	10
△	計画をやや下回っている	(70%以上)	0	0	0	0
×	計画を大幅に下回っている	(70%未満)	0	0	0	0
合 計			43	17	15	11

2 小項目(30項目)の評価

1の評価をもとに、中期計画の小項目(30項目)ごとに総合的に検証し評価

評価	評価の基準		小項目	県立大	専門職大	管理運営
a	計画を上回って実施	◎：25%以上 △・×：なし	6	2	3	1
b	概ね計画どおり進行	◎：25%未満 △・×：なし	24	10	6	8
c	計画をやや下回っている	△：1つ以上	0	0	0	0
d	計画を大幅に下回っている	×：1つ以上	0	0	0	0
合 計			30	12	9	9